



## 田中八郎 静岡支部 支部長

僕ら選手も走るだけじゃなくて、もっとこういう補助事業にも目を向けて行かないといけないのかなと感じました。

今回は静岡市にある静岡福祉事業協会が運営する母子支援施設「千代田寮」を、静岡支部の田中八郎支部長とともに訪問。競輪の補助で建てられた児童のための自立訓練棟を見学されての感想や、支部についてのお話を伺いました。

# 競輪ってこんなこと やっっているんだ!!

静岡でビッグレースを開催すること、  
強い選手を出すこと、  
支部の活性化にはこの2つが必要です。

—施設を見学されてどんな感想をもたれましたか。

「競輪の売り上げの一部が補助事業に使われているということはもちろん知っていませんけど、実際にこうやって訪問するのは初めてだし、内容にしてもいろいろ聞いて初めて分かったところもあって、競輪界から出たお金がこんなふうに使われているんだと改めて感じたのが一番ですね。それと、今回こちらの施設では建物を建てるための補助金だったというところで、補助には条件とか様々あるんだと思うと思うんですけど、建物だけで終わりじゃなくて、この先もこの施設がうまく循環して行けるような、そういう長いスパンで見た補助の仕方っていうのがあってもいいのかなと思いました」

—さらに幅広い形で競輪補助事業が活

かされるといいですね。

「僕らも走るだけじゃなくて、もっとこういう補助事業にも目を向けて行かないといけないかなって。うちの支部ではもう15年くらい前から小林宏年と大澤嘉文の2人で静岡市内の養護施設に毎年ランドセルを持って行っているんですよ。そうやって個人的に活動している選手もいるし、支部としてもまたこういう所に来て、なにか子供たちを喜ばせるお手伝いできたらいなと思いますね」

—静岡支部の現在の雰囲気は？

「昨年まで渡邊晴智が、その前は新田康仁もSSで頑張ってくれていたんですけど、この2人がとうとうSSの座から落ちてしまつて。昨年末のヤンググランプリで柴田竜史が優勝してくれたので、今年に向かつてちよつと明るい材料ができた

かなとは思ったんですけど、そのあと怪我が多かつたりで…。まあ今はちよつと沈滞ムードが漂っているんで、ここをなんとか打破するために、晴智や新田を筆頭に若い子を引き張ってもらつて、もう一度強い選手を出せるようにしたいですね。

あとは静岡にビッグレースを持つて来られればと。できればグランプリなんかやりたいなと思うんですけど、それには土台作りとか順番っていうのがあるんで。静岡競輪場は今、新しいスタンドを作つたりと設備的にはトップクラスの施設になっていくと思うし、いろいろ勉強してそういうレースも引張つてこられるような競輪場にしたいですね。大きなレースをやることと、強い選手を出す。活性化にはこの2つが必要かなと」

—ファンの方々にメッセージを。

「今、競輪界がこういう状況の中で競輪場に足を運んでくれるお客さんに対しては本当に有り難いと思いますし、静岡支部としてはもう一度強い選手を出してお客さんに喜んでもらえるようにしたいですね。僕個人としては、レースを走る以上は自分らしく、選手を辞める日まで一生懸命走ることを大事にしたいと思っています」